

## 成果は総合力なんです

残暑の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

コロナ禍、東京オリンピックが行われ、日本は、メダル数57個、内金メダル27個という輝かしい成績で終了しました。ホームページの社長日記でも少し書きましたが、今回は監督について書きます。



代表取締役社長 吉田治伸

オリンピックのメダルというものは、あくまでも選手が勝ち取ったもので監督やコーチが脚光を浴びる事は基本ありません。メダルをもらうのも選手だけです。しかし、今回ほど、躍進の陰に監督、コーチの存在が大きかった大会も少なくなかったのではないのでしょうか？私が思うに柔道の井上康生監督、水泳の平井コーチの存在感は群を抜いています。特に井上監督は、惨敗したロンドンオリンピック(男子金ゼロ、女子金1)の後、リオ、東京と素晴らしい成績を残しました。氏が監督就任して、それまでの指導方法を見直し、科学的なトレーニングを取り入れ、他国選手の映像分析はもとより、他国の格闘技を学ばせる、また、選手それぞれのメンタルも分析するなど多くの改革を経て9年越しで結果がでたものです。まさしく失敗の許されない国技という重圧のなか、まさしく「あっぱれ」です。

会社においても、監督は部門長、社長。コーチは担当営業。そして選手は現場の皆さんです。日本柔道チームのような素晴らしい成果を総合力で勝ち取りたいものです。

暑さは続きますが、9月からも感染防止を施した、安全なスマイルコニーでお願いいたします。